

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 29 年 6 月 13 日現在

機関番号：32630  
研究種目：基盤研究(C) (一般)  
研究期間：2014～2016  
課題番号：26370773  
研究課題名(和文) 日本古代における国造制と伴造制の比較研究 - 国造・伴造研究支援データベースの構築 -  
  
研究課題名(英文) A Study of the Kuni-no-miyatsuko (Kokuzo) System and Tomo-no-miyatsuko (Banzo) System in Ancient Japan  
  
研究代表者  
篠川 賢 (Shinokawa, Ken)  
  
成城大学・文芸学部・教授  
  
研究者番号：30149059  
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：国造制と伴造制は七世紀以前における大和王権の地方支配の中核をなす制度であり、大和王権の権力構造および古代国家の成立過程を解明するために不可欠な研究テーマである。本研究では、「伴造関係史料集」および「伴造関係文献目録」の作成と、「国造・伴造研究支援データベース」構築のためのテキストデータの作成を行った。また、国造制と伴造制の関係性に関する研究を実施した。

研究成果の概要(英文)：The Kuni-no-miyatsuko (Kokuzo) system and Tomo-no-miyatsuko (Banzo) system are regional governing institutions of Yamato Kingdom before the seventh century. They are essential themes to explore the formation process of the ancient Japanese nation. In this study, we have edited the sourcebook, the bibliography, the standard text and the database to support researches on Kuni-no-miyatsuko (Kokuzo) system and Tomo-no-miyatsuko (Banzo) system. Furthermore, we have conducted the research on these systems.

研究分野：日本古代史

キーワード：日本史 古代史 国造 伴造 部民

## 1. 研究開始当初の背景

国造制と伴造制は七世紀以前における大和王権の地方支配の中核をなす制度であり、大和王権の権力構造および古代国家の成立過程を解明するために不可欠な研究テーマである。

従来の研究では、国造の支配地域に部(べ)が設置されると、国造は自氏の同族や配下の集団を伴造として編成し、その管掌に当たらせたと考えられてきた。しかし、これに該当しないケースも散見しており、両制度の関係にはいまだ不明な点が多く残されている。

近年、豪族居館や郡家遺跡の発掘調査、出土文字資料の増加など、考古学分野の成果が多数蓄積されており、これらは国造制・伴造制や古代社会を考究する際に重要な手がかりとなる。こうした考古学分野に対する文献史学分野からのアプローチが、喫緊の課題である。

## 2. 研究の目的

大和王権の地方支配制度研究の基本史料を集めたものとしては、これまでに新野直吉『研究史国造』(吉川弘文館、1981年)、佐伯有清・高嶋弘志編『国造・県主関係史料集』(近藤出版社、1982年)、武光誠『研究史部民制』(吉川弘文館、1981年)同『古代史演習部民制』(同、1982年)などが刊行されている。しかし、これらは刊行後30年以上が経っており、研究の個別分散化が進み、出土文字資料も増加しているにもかかわらず、いまだ増補・改訂はなされていない。

このような現状に対して、研究代表者は、国造制・伴造制に関する史料と文献の収集、研究史の整理、伴造氏族に関する事例研究、関連史料の調査、フィールドワークを重ね、

その成果を国造研究会において発表してきた。また、平成22~24年度には、科研費基盤研究C「日本古代の国造制と地域社会の総合的研究」(研究代表者:篠川賢、研究分担者:大川原竜一・鈴木正信)を獲得し、その成果として、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編著『国造制の研究』(八木書店、2013年)を刊行した。

そこで本研究では、以上の研究成果と国造研究会の活動実績を集約させ、最新の研究成果を盛り込んだ新しい史料集・出土文字資料集・文献目録・データベースを作成して、広く研究者や社会に提供するとともに、これらを活用して国造制・伴造制の関係性を解明し、さらには七世紀以前の地方支配制度の全体を見通すことを目的とした。

## 3. 研究の方法

本研究は、(1)伴造関係記事の収集・整理、(2)伴造関係出土文字資料の収集・整理、(3)伴造関係文献の収集・整理、(4)伴造関係史料集の作成、(5)伴造関係出土文字史料集の作成、(6)伴造関係論文目録の作成、(7)国造・伴造研究支援データベースの作成、(8)国造制と伴造制の関係性に関する検討、以上の8段階によって実施した。

## 4. 研究成果

平成26年度には、(1)伴造関係記事の収集・整理、(2)伴造関係出土文字資料の収集・整理、(3)伴造関係文献の収集・整理を実施した。このうち、(1)は約3,500件の伴造関係記事を収集した。(2)は約2,000件の伴造関係出土文字史料を収集した。(3)は先行研究の整理を行い、必要な図書を購入するとともに、関係する論文の収集・複写を行った。あわせて、次

年度に予定している史料集・文献目録・テキストデータベースの体裁を検討した。また、論文3本、著書1冊を刊行し、学会発表を4回行った。

平成27年度には、(4)伴造関係史料集の作成、(5)伴造関係出土文字資料集の作成、(6)伴造関係文献目録の作成、を実施した。このうち(4)・(5)は、「伴造」・「品部」・「名代」・「御名入部」・「子代」・「部曲」などの用語を中心に、史料集の原型となるテキストデータを作成した。(6)は前年度に収集した参考文献をもとに、文献目録の原型となるテキストデータを作成した。また、論文4本、著書1冊を刊行し、学会発表を1回行った。

平成28年度には、前年度に引き続き(4)・(5)・(6)の実施に加えて、(7)国造・伴造研究支援データベースの作成、(8)国造制と伴造制の関係性に関する検討、を実施した。このうち(4)～(7)は前年度までに作成した「伴造」・「品部」・「名代」・「御名入部」・「子代」・「部曲」などの用語に関わるテキストデータを基礎とし、これらを修正・増補する形で作成した。(8)は、研究代表者の勤務する成城大学において研究会等を実施して、研究成果の報告・共有を行った。また、論文1本を刊行し、学会発表(招待講演)を1回行った。

なお、本研究の成果は、篠川賢・大川原竜一・鈴木正信編『国造制・伴造制の研究』(八木書店)として刊行予定である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計5件)

篠川賢、部曲の廃止、史聚、査読無、50号、2017、90-98

篠川賢、古代阿曇氏小考、日本常民文化

紀要、査読無、31号、2016、37-62

鈴木正信、『大神朝臣本系牒略』の原資料と引用史料、纏向学研究、査読無、3号、2015、19-36

鈴木正信、Methodology for Analyzing the Genealogy of Ancient Japanese Clans、Wias Reseach Bulletin、査読有、Vol.7、2015、17-27

鈴木正信、上野国美和神社の官社化と神階奉授、桐生史苑、査読無、53号、2014、3-23

〔学会発表〕(計6件)

篠川賢、国造制研究の現状と北関東の国造(基調講演)、第12回茨城大学人文学部地域史シンポジウム「北関東の豪族たち」、2017年1月28日、栃木県下都賀郡壬生町城址公園ホール(栃木県)

篠川賢、古代阿曇氏小考、国造研究会、2016年2月20日、成城大学(世田谷区)

鈴木正信、『海部氏系図』の基礎的研究、国造研究会、2015年1月10日、成城大学(世田谷区)

鈴木正信、The Structure and Development of Religious Service in Ancient Japan、WIAS Monthly Workshop、2014年11月14日、早稲田大学早稲田キャンパス(新宿区)

鈴木正信、武蔵国高麗郡と大神氏、国造研究会、2014年10月11日、成城大学(世田谷区)

鈴木正信、『円珍俗姓系図』の成立と歴史の位相、あたらしい古代史の会、2014年7月26日、早稲田大学戸山キャンパス(新宿区)

〔図書〕(計5件)

篠川賢、他5名(木畑洋一、浦井祥子、外池昇、田嶋信雄、小澤正人)小澤正人編、成城大学グローバル研究センター、「久米邦武の「国体」観と久米事件」(小澤正人編『歴史認識のグローバル研究』)、2016、160(47-63)

篠川賢、吉川弘文館、継体天皇、2016、247

篠川賢、他20名(加藤謙吉、鈴木正信、長谷部将司、小野里了一、遠山美都男、平林章仁、水谷千秋、近藤浩一、早川万年、関口功一、藤井康隆、湊哲夫、大日方克己、塚口義信、堀大介、小倉慈司、坂靖、松本建速、永山修一、宮代栄一)洋泉社編集部編、洋泉社、「物部氏」の始祖伝承はどのように成立したか」(洋泉社編集部編『古代史研究の最前線 古代豪族』)、2015、256(60-69)

篠川賢、他15名(中村友一、早川万年、高井佳弘、傳田伊史、中川久仁子、紅林怜、小野里了一、永田一、原口耕一郎、前之園亮一、川崎晃、三舟隆之、大川原竜一、鈴木正信)加藤謙吉編、大和書房、「ワカタケル大王と地方豪族」(加藤謙吉編『日本古代の王権と地方』)、2015、506(27-46)

鈴木正信、雄山閣、日本古代氏族研究叢書 大神氏の研究、2014、298

(1)研究代表者

篠川 賢 (SHINOKAWA Ken)  
成城大学文芸学部教授  
研究者番号：30149059

(2)研究分担者

鈴木 正信 (SUZUKI Masanobu)  
早稲田大学高等研究所准教授  
研究者番号：30538335  
(平成27年度に削除)